

渡邊萬次郎賞

渡邊萬次郎賞第 32 回受賞者

秋月 瑞彦 会員



秋月瑞彦先生は 1937（昭和 12）年に和歌山県にお生まれになり、1961 年に東北大学理学部地学第二学科を卒業され、1963 年、東北大学大学院理学研究科修士課程を修了、東北大学大学院理学研究科博士課程に進学された。1964 年に同博士課程後期を中退され、ただちに東北大学理学部岩石鉱物鉱床学教室の助手として奉職された。1973 年からは助教授となられ、1990 年には教授に昇任され鉱物学講座を担当された。2001 年 3 月に定年退官され、長年の研究・教育の業績により、2001 年 4 月に東北大学名誉教授となられた。

秋月瑞彦先生は、鉱物の組織に関する研究を精力的に押し進め、68 編の論文と 4 冊の著書を公表されてきた。研究当初は、鉱物組織の透過型電子顕微鏡を用いた解析に従事された。先生が研究に着手された 1975 年以前では、電子顕微鏡観察に必要な薄膜を作製することが難しかったため、鉱物組織の研究はほとんどおこなわれていなかった。秋月瑞彦先生はいろいろな工夫をして薄膜をつくり、電子顕微鏡での研究をなされた。1968 年には「Studies of some minerals by electron microscope」によって、東北大学の理学博士の学位を授与され、またこの御功績により、1969 年には日本岩石鉱物鉱床学会の研究奨励賞を受賞された。

1975 年以降、電子顕微鏡の薄膜を作製する装置が開発され、誰もが電子顕微鏡で鉱物組織を観察されるようになると、鉱物の光学異常や準安定鉱物にいち早く研究テーマを移された。そして、1978 年にイギリスのマンチェスター大学の地質学教室に留学され、タルクの格子像による研究、トパーズの光学異常の研究、氷長石の組織の研究を発表され、光学異常の原因について解明された。秋月瑞彦先生の提唱された結晶内部の分域構造と成長過程モデルは、さまざまな沸石やざくろ石、電気石など多種多様な鉱物からも見出され、普遍的な現象であることが明らかになった。

秋月瑞彦先生は学生指導・教育面にも情熱をもってあたられ、「山の結晶（水晶の鉱物学）」、「虹の結晶（オパール、ムーンストーン、ひすいの鉱物学）」などの啓蒙書、それに「鉱物学概論（形態と組織）」等の専門書を表しておられる。1994 年には国際協力事業団の鉱物学専門家として、チリ・コンセプション大学鉱床学研究所に派遣され、現地で鉱物の研究方法などの指導をされた。

秋月瑞彦先生は、日本岩石鉱物鉱床学会評議員ならびに編集委員長、日本鉱物学会の評議員等として長年各学会の発展に御尽力され、我が国の鉱物学の学協会に大きな貢献をされた。

秋月瑞彦先生の研究・教育及び学会活動は、わが国の鉱物学の発展に大きく寄与したものである。以上のような鉱物学への長年の貢献と優れた研究・教育業績ならびに普及活動への顕著な貢献に鑑み、秋月瑞彦先生を日本鉱物科学会渡邊萬次郎賞に推薦する。

秋月瑞彦 会員の略歴

1937年 5月 1日生、和歌山県
1961年 3月東北大学理学部地学科地学第二 卒業
1963年 3月東北大学大学院理学研究科修士課程修了(理学修士)
1963年 4月東北大学大学院理学研究科博士課程進学
1964年 9月東北大学大学院理学研究科博士課程退学
1964年10月東北大学理学部助手
1968年 2月東北大学より「Studies of some minerals by electron microscope」によって理学博士の学位授与
1973年 3月東北大学理学部助教授
1978年 4月文部省在外研究員としてイギリスManchester大学に留学
1990年 8月東北大学理学部教授
2001年 3月停年により退官
2001年 4月東北大学名誉教授

非常勤講師歴

北海道大学理学部、弘前大学理学部、宮城教育大学、東北大学歯学部、新潟大学理学部、筑波大学理学部、千葉大学理学部、名古屋大学理学部、高知大学理学部、熊本大学理学部、中国瀋陽市地質鉱産物研究所

学会・社会活動

1979~1982年日本鉱物学会評議員
1984~1987年日本鉱物学会評議員
1988~1990年日本岩石鉱物鉱床学会評議員
1990~2002年日本岩石鉱物鉱床学会誌編集委員長